

# 第16回 機能制御学セミナー

## AAVの作り方、使い方

講師：瀬原 吉英 先生

自治医科大学 分子病態治療研究センター

遺伝子治療研究部 講師

疾患の理解が進むに連れ、特定の遺伝子発現の調節によって根治的な疾患治療を目指すことが可能になった。特に、治療法がない単一遺伝子病において、核酸医薬やウイルスベクターによる遺伝子治療の臨床応用が進められている。本セミナーでは当研究部で研究を進めているアデノ随伴ウイルスベクターの基本的特徴を中心に解説したい。

アデノ随伴ウイルスベクターは直径約25 nmのエンベロープを持たないウイルスで、分裂細胞・非分裂細胞ともに効率の良い遺伝子導入が可能である。アデノウイルスの存在下にしかな増殖できず、当初は病原性のないウイルスとして注目されなかったが、病原性がない点において安全な遺伝子治療に利用可能であることから注目されるようになった。アデノ随伴ウイルスベクターはP1レベルで使用可能で使いやすいウイルスであるが、作製上・使用上での注意点とともに、近年の研究開発の流れと演者の取り組みについて紹介したい。

日時：2023年4月21日 (金曜日)

17:30～18:30

場所：医学部 第3講義室

世話人：神吉 智文

機能制御学分野

電話：025-227-2156

[kanki@med.niigata-u.ac.jp](mailto:kanki@med.niigata-u.ac.jp)